公立大学法人福島県立医科大学附属病院

福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会　第3号　発行日　平成20年2月20日

〒960-1395 福島市光が丘1番地／TEL（024）547-1111㈹　ホームページ　http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.html

「安全・安心・信頼」—副病院長あいさつ—

副病院長　横山　斉

福島県立医科大学附属病院は、福島県の医療の中核として常に最高水準の医療を提供してきました。公立大学法人化後は、積極的に情報公開、医療安全、患者満足度向上に努めるとともに、県民のさらなる信頼獲得に向けて、苦情受付体制、病院アメニテイの向上、患者情報の保護など常に時代に合わせた改善の歩みを進めております。本年1月からは、東北では初めてのドクターヘリが運行を開始し、同時に救命救急センターが整備されました。福島県のどこで急病になろうとも、私たち医療チームが駆けつける体制が出来つつあります。安全・安心の輪が少しずつでも広がって行くことが私たちの願いです。今後とも、私たち福島医大のスタッフは24時間365日一人ひとりが力を合わせて、病気に苦しみ助けを求める方々に寄り添い応援していきます。患者さんとご家族の安全・安心、そして信頼のために。

第3号のなかみ

2ページ‥‥ ○「おなかの内科」と「免疫の内科」
—「消化器内科」と「リウマチ膠原病免疫内科」の紹介—
○県内で初めてがん看護臨床実習研修を医大で実施!!
○病気のまめ知識「花粉症について」

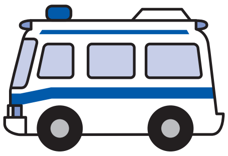
3ページ‥‥ ○ご存じですか?1階の外来診察室の場所が変わりました
○中央採血室が広々と —リニューアル—
○小児病棟の子ども達にプレゼント —クリスマス会—
○「きいてください 院長さん」投書箱から
○必ず返してくださいネ! —面会許可証—

4ページ‥‥ ○栄養士からアドバイス —減塩食のひと工夫!—
○こんにちは!外来受付です
○病院ボランティア「けやきの会」りれー通信 1

救命救急センター開設・ドクターヘリ運航

福島県立医科大学附属病院救急科　田　勢　長一郎

1.救命救急センターとは

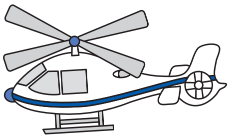


今まで附属病院は重症な救急患者様を診察してきましたが、救急指定病院ではなく入院設備も不十分でした。しかし、1月28日に待望の救命救急センターが開設されます。救命救急センターとは、頭や胸を打つなどの大怪我をし血圧も低い、心筋梗塞、脳卒中、大量出血などで急に状態が悪くなった患者様など生命に直結する方が対象になります。

このために、救急専門医が24時間診療に当たり、各科専門医と協力し高度な医療を提供できる態勢をとっています。福島県には県中・県南、会津、いわきに開設されており、今回県北地域の附属病院への開設によって4ヶ所になります。

救急のための入院ベッドは20床予定しております。しかし、病床数には限りがありますので、状態が安定したなら他の病院へ転院して頂くこともあります。また、救命救急センター外来では、他の診療所や病院での診療が困難な重症な患者様を診察するところで、時間外診療を行うところではありません。救命救急センターの役割を皆様に理解して頂き、県北地域や県内の救急医療の最後の砦としての使命を担っていきたいと思います。

2.ドクターヘリの運航



センター開設と同時にドクターヘリが配備されます。ドクターヘリとは救急専門の医師と看護師が同乗して救急現場へ駆けつけ、救急隊と協力してすばやく適切な救急処置を行いながら患者様を最適な病院へ早急に搬送するのが目的です。ヘリコプターの速度は時速200㎞ですので、医大から吾妻小富士までわずか6分で到着できます。

運航は365日で県内全域を対象としていますが、有視界飛行のため日中のみです。出動は消防の救急指令室の要請に限定していますので、一般の方からの直接要請はお受けできません。ヘリの離着陸には騒音や吹き降ろしの風（ダウンウォッシュ）がつき物です。この点も皆様に理解して頂きながら、ドクターヘリを運用していきたいと思います。

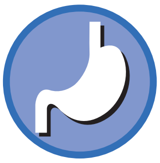
清潔と快適をクリエイトする。
病衣・付添寝具
〔ご利用・お問合わせ先〕
株式会社 同仁社
医大リネン室
電話 024-547-1111
内線 3081
DOJINSHA
㈱同仁社

「教育」から「就職」までトータルサポート
ニチイだからできること。
教育事業
医療事務・ホームヘルパー講座 他
医療関連事業
ヘルスケア事業
医療事務のお仕事に興味のある方は、どうぞお問い合わせください。
株式会社ニチイ学館 福島支店
TEL 024-524-2835
〒960-8031 福島県福島市栄町6-6 UNIXビル3F
ニチイ

お願い!! **すべりやすいという御指摘があり、3月中旬まで「玄関前歩道改修工事中」。足元に注意し、御協力下さい。**

「おなかの内科」と「免疫の内科」 ―「消化器内科」と「リウマチ膠原病免疫内科」の紹介―

内科学第二講座　准教授　**入澤　篤志**



かつては「第二内科」という診療科名でしたが、現在は専門性を表す「消化器内科」と「リウマチ膠原病免疫内科」という名称で診療を行っています。ここでは、この2科について簡単な紹介を記します。

1.消化器内科について

皆さんは「消化器」にはどのような臓器が含まれるかご存知ですか。消化器は、消化管（食道・胃・小腸・大腸）と肝臓・胆のう・すい臓から構成され、食べ物の栄養を吸収して体を動かすエネルギーを作る大事な役割を果たしています。私たち消化器内科は、主にこのような臓器の病気をお持ちの患者様に対して診療を行っている、いわゆる「おなかの内科」です。最近は、超音波検査（エコー検査）や内視鏡検査（胃カメラや大腸カメラ）などが進歩したおかげで、病気を的確に診断できるようになり、さらには様々な消化器病に対して、おなかを切らないで治療を行うことも可能になってきました。消化器が悪いとエネルギー不足となり体もまいってしまいます。ちょっとでもおなかに不安を感じたら、早めに当科を受診されてみてはいかがですか。

2.リウマチ膠原病免疫内科について

リウマチや膠原病という病気は「自己免疫性疾患」に含まれる病気で、自分自身の体の構成成分と反応してしまう白血球や抗体などが病気を引き起こすと考えられています。症状としては、原因がはっきりしない発熱や、筋肉・関節の痛みが続いたりします。なぜ自分自身の体を自ら攻撃してしまうかなど、まだまだその原因ははっきりしておりませんが、世界中の多くの研究者がその治療法の確立に取り組んでいます。私たちリウマチ膠原病免疫内科でも、自己免疫性疾患の診断と治療に情熱を燃やす専門家が日々診療にあたっています。先ほどの症状に思いあたる方は、ぜひ当科を受診されてみてはいかがでしょうか。

県内で初めて *がん看護臨床実習研修* を医大で実施!!

12月6日～2月8日の40日間、がん看護臨床実務研修が福島県で初めて、当院で実施されました。この研修は、がん看護に関する専門的な臨床実務研修を行うことにより、看護師を育成し、県内のがん看護の水準を高め、がん患者への看護ケアの質の向上を図ることを目的に行っています。今回は県内の12ヶ所の病院から13名の看護師が各自課題を持って研修に臨みました。

研修では、がんの基礎知識、さまざまな治療の実際、がん患者や家族の苦痛の理解、症状コントロール、ケアなど幅広い内容でした。また、病棟実習では、新たな発見や看護ケア介入のポイントなどの実践が学べました。他病院の研修生は「医大病院の医療や施設内の様子が見学でき興味深かった」と有意義な研修であったことを話していました。

今後は、研修受講者同士で情報交換を行いながら学びを活かし日々の看護を行い、自病院ならびに福島県内のがん看護の質の向上を目指して行きたいと考えています。

（6階東病棟　岩渕良枝）

病気のまめ知識 *「花粉症について」*

耳鼻咽喉科　**小川　洋**

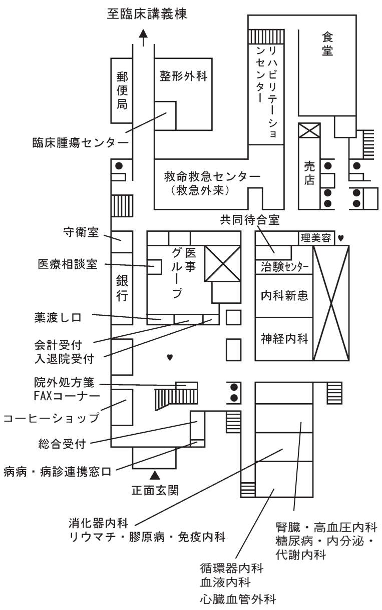
花粉症は国民病として定着し、鼻、眼の症状で悩む方が増加しています。「花粉症」とは花粉を吸入したり、眼瞼結膜に付着したりすることによって起こる様々な症状をまとめて呼びますが、スギ花粉で症状が出現する方が圧倒的に多いので「花粉症」すなわちスギ花粉症と認識されている方が多いと思います。スギ花粉症の方はヒノキ花粉でも症状をきたす方が多いので、福島市の場合には2月下旬から5月のゴールデンウィークが終わる頃まで花粉に対する対策が大切になるかと思います。地球温暖化の影響でしょうか、昨年は例年になく早い時期からスギ花粉の飛散が確認されました。どうして花粉症になってしまうのかという本質的なところは未だ解明されていませんが、花粉を吸入し、鼻粘膜に付着した場合、花粉と鼻粘膜にある細胞が反応して化学物質を放出し、くしゃみ、鼻水、鼻づまりといった症状を引き起こすことはかなり以前から解明されています。花粉症への対策は花粉を吸入しないこと、眼に付着させないことが最も重要となります。最近は立体的なマスクやメガネが市販されていますが、それらを利用することはとても有効です。

症状が強い場合、お薬で治療をすることになりますが、化学物質（特にヒスタミン）を押さえる飲み薬、点鼻薬、点眼薬がよく用いられます。お薬の効果は個人差があり、同じお薬でも眠気が強くでてしまう方がいらっしゃいます。自分のつらい症状とお薬を使った後の眠気や鼻のひりひりした感じ、のどの渇きなどがでる方はお医者さんと相談してお薬を変更してもらうのが良いと思います。お薬を使っていても沢山の花粉を浴びてしまっては、症状は改善しませんので、お薬を使いながら花粉を避けることが大切です。スギ花粉の飛散シーズンにはテレビや新聞で花粉飛散予報が報道されます。よく晴れた風の強い日には予想外に花粉が飛散します。予報を参考にしながら、花粉を浴びないようにして、うまくスギ・ヒノキ花粉のシーズンを過ごして頂きたいと思います。

ご存じですか？ 1階の外来診察室の場所が変わりました

平成19年9月から行ってまいりました外来再編整備に伴う一部の外来診療科の工事につきましては、順調に進んでおりまして、平成19年度に予定しております工事は平成20年3月までにはすべて完了する予定です。工事期間中につきましては、関係各位の皆様のご理解とご協力頂きましたことにつきまして厚く御礼申し上げます。なお、一部の外来診療科の移動により、患者様をはじめとしました関係者の方々にご不便・ご迷惑をおかけしたことにつきましては、おわび申し上げます。

1階外来診療科の平面図



中央採血室が広々と ―リニューアル―

平成20年1月4日より中央採血室が生まれ変わりました。平成11年に開設以来、中央採血室を利用する患者さんは年々増加しており、開設時と比較すると実に53.4%の増加となっています。

新システムは待ち時間の短縮を目指し、採血台を4台から6台に増やしました。また、電動昇降採血台は患者さんの身長に合わせることができます。

車椅子の患者さんにも対応できる採血台を用意しました。その他、患者呼び出し画面を大きくし、待ち時間の表示も行うようになりました。

これからも患者さんにやさしく、安全、安心をモットーに運営していきます。

（検査部　田中京子）

小児病棟の子ども達にプレゼント ―クリスマス会―

4階西病棟（小児科、小児外科、小児循環器外科）では、小児が闘病生活する場として少しでも日常性や季節感を取り入れた療養環境を提供したいとお花見や花火大会など様々な行事に取り組んでいます。

去る12月は病棟内をイルミネーションやツリーなどの飾りつけでクリスマスを演出し、12月21日には、クリスマスソングとキャンドルサービスの中でサンタクロースとトナカイが登場し、プレゼントを配って子ども達をびっくりさせました。患児一人ひとりの好みを考えて用意されたプレゼントを手にして子ども達はとても嬉しそうでした。

病院での生活が辛く苦しい思い出だけではなく、「がんばったし楽しいこともあったね」と心に残るような思い出もたくさん残していってほしいと考えています。

（4階西病棟　渡辺敦子）

「きいてください 院長さん」　投書箱から

最近の投書への取組状況を紹介させて頂きます。

① 医大附属病院で、採血の検査結果と基準値が併記された検査結果をプリントアウトできないか検討をお願いしますという投書がありました。当病院では電子カルテの画面印刷により、検査結果と基準値を印刷することができます。検査結果と基準値の併記された検査結果を要望される場合、担当の医師に要望を伝え、印刷を依頼して下さい。

② 最近、「病院の外へ出た植え込みの中にタバコの吸いがらがあった。汚れるのと火災が怖いです。」「敷地内禁煙のはずが、出入口左側でたばこを吸っている人がいます。」など病院敷地内での喫煙についての投書がたびたび寄せられております。

当病院は平成17年5月から敷地内全面禁煙になっております。喫煙は喫煙者本人のみならず喫煙者の周りの人々にも、健康に対して悪影響を及ぼします。病院敷地内の禁煙にご理解とご協力をお願いいたします。

これからも、サービス向上に努力してまいりますので、今後とも忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

必ず返してくださいネ! ―面会許可証―

ご面会の皆様にお渡ししている黄色の「面会許可証」ですが、お帰りの際には守衛室または総合案内までお返し下さいますようお願いいたします。職員が不在の場合は返却箱へお入れ下さい。ご協力よろしくお願いいたします。

看護師募集!! **質の高い7対1看護を目指しています。私たちと一緒に働いてみませんか？**
最新の採用情報をお問い合せ下さい。臨時職員は随時受付ています。
看護部事務室
TEL 024(547)1390

栄養士からアドバイス ―減塩食のひと工夫!―

患者さんから、「**食べ物の量は我慢できるけど、しょっぱいものが好きだから減塩は無理。**」「**しょっぱいものがないとご飯が食べられない。**」というお話をよくうかがいます。多くの患者さんにとって食生活の改善は、これまでの食生活を根本から変えることになり、体のためと分かっていても、かなり抵抗があるようです。特に塩分制限は、食べ物の味そのものを左右するため、なかなか大変です。

減塩を上手にするためのコツは、

1. 漬け物・汁物の量に気をつけて
2. 「かけて食べる」より「つけて食べる」
3. 酸味を上手に使いましょう
4. 香辛料を用いてみましょう
5. 香りを利用して
6. 香ばしさも味方です
7. 油の味を利用して
8. 酒の肴に注意
9. 練り製品・加工食品には気をつけて
10. 食べすぎないように

まずは少しずつ薄味に慣れることが第一歩です。薄味に慣れてくると、素材の持ち味が分かるようになります。できることから始めてみませんか？　管理栄養士

こんにちは！ 外来受付 です

皆様にはお馴染みの総合受付と各診療科の外来受付をご紹介いたします。

総合受付では、平均で1日約1,500人の患者様の様々な種類の保険情報を正しく登録するために細心の注意を払い対応しております。

ところで、診療ケースの色が、何種類かあるのはお気づきでしょうか?

黄色…医大がはじめての方、　青色…再来の方、
緑色…紹介状をお持ちの方、　朱色…救急センター受診の方

この様なケースの色により、患者様の状況に応じた対応を心掛けております。

また、各診療科外来受付では、受付に出された診療ケースとパソコンの『受付患者一覧』画面を照合しながら作業を進めております。入力された会計の内容や保険が適正に選択されているかの確認、次回の予約検査の説明、翌日の予約準備などスムーズな診療のための作業を行っております。

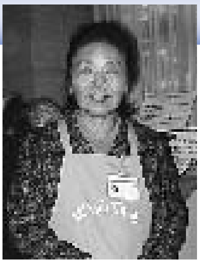
総合受付や外来受付におきまして、時には確認作業に時間がかかりご迷惑をおかけしてしまうこともありますが、思いがけず患者様やご家族の皆様から労いの言葉をかけていただくこともあり、スタッフの大きな励みとして日々の業務への活力源となっております。

スタッフ一同、正確で迅速な受付と会計待ち時間削減など、より質の高いサービスを目指して、勉強会を行い、技能や接遇の向上に努めておりますが、更にお気づきの点など皆様からご意見をいただき、より一層心のこもった対応に生かして参りたいと考えております。

病院ボランティア「けやきの会」　りれー通信 1

こちらは病院ボランティア「けやきの会」です。このコーナーでは、会員が交代で日頃の活動で感じていることをお伝えします。今回は渡辺多恵子さんです。

皆さんこんにちは。副会長の渡辺多恵子です。私は、少しでも患者さんのお役に立てればと思い、10年前からボランティア活動に参加しています。活動していて、患者さんから「ありがとう」と感謝される喜びを毎回感じています。また、一緒に活動している会員との交流も楽しみのひとつです。



でも、残念なことがあります。発足当時は60名以上の会員がいましたが、年々少しずつ人数が減ってしまいました。以前のように多くの方が参加してくれたら、あれも、これもと活動したいことがたくさんあります。

病院ボランティアに関心がある方、定年を迎えて時間に余裕ができた方、私たちと一緒に活動してみませんか。新しい発見がありますよ。

マチのほっとステーション
LAWSON
ローソン福島県立医科大学附属病院店（エレベーターホール隣）
ローソン福島県立医科大学店（福利厚生棟内）

スターバックスコーヒー福島県立医科大学附属病院店

営業時間　平日　7時～20時
土日祝　9時～19時

アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。
高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやペストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

※次号は、5月中旬頃に発行いたします。